



PRINCE2® 7 プラクティショナー
シラバス

PeopleCert

公式トレーニング教材



1. はじめに

PRINCE2 7プラクティショナー認定資格はプロジェクト・マネージャーおよびプロジェクト・マネージャーを目指す方を対象としています。プロジェクトの設計、開発、デリバリーに關与するその他の主要なスタッフも対象となります。これには、プロジェクト委員会メンバー（例：上級実行責任者）、チーム・マネージャー（例：成果物デリバリー・マネージャー）、プロジェクト保証（例：ビジネス変更アナリスト）、プロジェクト支援（例：プロジェクトおよびプログラム・オフィスの人員）、運用ライン・マネージャーまたはスタッフが含まれます。

PRINCE2 7プラクティショナー試験の目的は、PRINCE2プロジェクト・マネジメント手法の受験者の適用力と応用（テーラリング）力を評価することにあります。通常、試験で好成績をあげる受験者は、実際のプロジェクトにおいてこの手法を適切に指揮して適用し始めることができます。ただし、あらゆる状況で適切にそう対応できるスキルは持ち合わせていない場合があります。個々のプロジェクト・マネジメントに関する専門知識、プロジェクトの複雑性、仕事環境で PRINCE2 手法を使用するために提供される支援といった要因すべてが、プラクティショナーが達成できる成果にインパクトを与えます。

2. 試験の概要

持ち込み可能な資料	PRINCE2 公式書籍	この試験は「公式書籍の持ち込み可」です。『PRINCE2 7 成功のためのプロジェクト・マネジメント手法』公式書籍は持ち込み可能（書籍にメモを取ることも可能）ですが、これ以外の教材は使用できません。
試験時間	2 時間 30 分	母国語以外または業務で使用する言語以外の言語で試験を受ける受験者には 25% の延長が認められ、制限時間は 188 分間になります。
配点	70 点	70 個（パート）の設問があり、1 問につき 1 点です。点数がマイナスになることはありません。
合格点	42 点	試験に合格するには、42 問（パート）以上正解する必要があります。
思考レベル	ブルームのレベル 3 および 4	「ブルームのレベル」は、設問に答えるために必要な思考のタイプを表します。ブルームのレベル 3 の設問では、状況に応じた知識を適用する必要があります。ブルームのレベル 4 の設問では、提示された情報を分析し、行動方針が効果的/適切であるかどうかを判断する必要があります。
試験形式	シナリオ、追加情報、設問	「プロジェクトのシナリオ」では、設問で取り上げるプロジェクトの背景について説明しています。しっかり読んでください。少なくとも 1 つの設問では、「追加情報」にあるプロジェクト参加者に関する情報も活用する必要があります。
設問のタイプ	標準、組み合わせ	設問はすべて「多肢選択式」です。状況について短い説明があり、設問が続きます。「標準」の設問（1 点）では、設問とそれに対する答えとして 4 つの選択肢（A、B、C、D）が提示されます。「組み合わせ」の設問（3 点）では 3 つの情報が与えられ、5～6 の選択肢から各情報の回答を 1 つずつ選択する必要があります。

3. 設問のタイプ

「標準」の設問例:

プロジェクトは『XXX』プロセスの実行中です。プロジェクト・マネージャーは Y を実行することを決めました。

これはプロジェクト・マネージャーが取る処置として適切でしたか？ それはなぜですか？

- a) はい、理由は XXX です
- b) はい、理由は YYY です
- c) いいえ、理由は XXX です
- d) いいえ、理由は YYY です

「組み合わせ」の設問例:

以下は XXX に関連する 3 つの活動です

各活動に対して実行責任を負うのは次の役割（A～E）のうちどれですか？ 活動ごとに役割を **1 つ**だけ選択してください。

各役割は 1 度しか任命しなくても、何度任命しても、まったく使用しなくても構いません。

1) XXX を実行する	A. プロジェクト・マネージャー
2) XXX を実行する	B. チーム・マネージャー
3) XXX を実行する	C. シニア・ユーザー
	D. シニア・サプライヤー
	E. プロジェクト・エグゼクティブ

試験の形式と内容の例については、[模擬試験](#)をご確認ください。

4. シラバス

以下の表では、試験で知識が試される概念の概要と、それらの概念が説明される公式書籍の主要部分をまとめています。

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル (Bloom's Level: BL)
1. PRINCE2 の原則を状況に適用する方法を理解する	1.1 状況に対する PRINCE2 の原則の適用を分析する: a) ビジネス正当性の継続の確保 (2.1) b) 経験からの学習 (2.2) c) 役割、責任、関係の定義 (2.3) d) ステージによるマネジメント (2.4) e) 例外によるマネジメント (2.5) f) 成果物重視 (2.6) g) プロジェクトに合わせたテーラリング (2.7)	BL4
2. プロジェクトを成功に導く効果的な人材マネジメントを適用する方法を理解する	2.1 チームに対するリーダーシップとマネジメントのアプローチが適切であるか評価する (3.3、3.1)	BL4
	2.2 プロジェクト内の変更およびプロジェクトから影響を受ける人に対する、リーダーシップとマネジメントのアプローチが適切であるかどうかを評価する (3.2、3.1)	BL4
	2.3 アプローチを以下に適用する: ● コミュニケーション (3.4) ● 手法の中心となる人 (3.5)	BL3
	2.4 プロジェクトの人の要素を支援するために必要な、主なマネジメント成果物を適用する: ● コミュニケーション・マネジメント・アプローチ (3.4) ● 変更マネジメント・アプローチ (3.2)	BL3
3. 関連する PRINCE2 プラクティスの側面を状況に適用およびテーラリングする方法を理解する	3.1 ビジネス・ケース 3.1.1 次の項目に関する理解を示しながら、PRINCE2 の「ビジネス・ケース」プラクティスを適用する: a) 「ビジネス・ケース」プラクティスを支援するために必要な、主なマネジメント成果物 (5.5): ○ ビジネス・ケース ○ PID: ベネフィット・マネジメント・アプローチ ○ PID: 持続可能性マネジメント・アプローチ ○ プロジェクト要約書 b) 「ビジネス・ケース」プラクティスに関連する主要な役割の重点分野 (表 5.1) c) 効果的なマネジメント技法と関連技法 (5.2、5.3)	BL3
	3.1.2 「ビジネス・ケース」プラクティスの適用に対するアプローチが効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する:	BL4

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル (Bloom's Level: BL)
	PRINCE2 の原則、プラクティスの効果的なマネジメント技法と関連技法、プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング (5.2、5.3、5.4、5.7)	
	3.2 組織化 3.2.1 次の項目に関する理解を示しながら、PRINCE2 の「組織化」プラクティスを適用する： <ul style="list-style-type: none"> a) 「組織化」プラクティスを支援するために必要な、主なマネジメント成果物 (6.5) : <ul style="list-style-type: none"> ○ PID: プロジェクト・マネジメント・チーム組織 ○ PID: 役割記述書 ○ PID: 商業マネジメント・アプローチ b) 「組織化」プラクティスに関連する主要な役割の重点分野 (表 6.4) c) 効果的なマネジメント技法と関連技法 (6.2、6.3) 	BL3
	3.2.2 「組織化」プラクティスの適用に対するアプローチが効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：PRINCE2 の原則、プラクティスの効果的なマネジメント技法と関連技法、プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング (6.2、6.3、6.4、6.7)	BL4
	3.3 計画書 3.3.1 次の項目に関する理解を示しながら、PRINCE2 の「計画」プラクティスを適用する： <ul style="list-style-type: none"> a) 「計画」プラクティスを支援するために必要な、主なマネジメント成果物 (7.5) : <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画書 (プロジェクト計画書、ステージ計画書、チーム計画書、例外計画書) ○ プロジェクト成果物記述書 ○ ワーク・パッケージ記述書 b) 「計画」プラクティスに関連する主要な役割の重点分野 (表 7.1) c) 効果的なマネジメント技法と関連技法 (7.2、7.3) 	BL3
	3.3.2 「計画」プラクティスの適用に対するアプローチが効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：PRINCE2 の原則、プラクティスの効果的なマネジメント技法と関連技法、プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング (7.2、7.3、7.4、7.7)	BL4
	3.4 品質 3.4.1 次の項目に関する理解を示しながら、PRINCE2 の「品質」プラクティスを適用する： <ul style="list-style-type: none"> a) 「品質」プラクティスを支援するために必要な、主なマネジメント成果物 (8.5) : <ul style="list-style-type: none"> ○ 成果物記述書 ○ プロジェクト・ログ: 成果物登録簿 	BL3

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル (Bloom's Level: BL)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ PID: 品質マネジメント・アプローチ ○ プロジェクト・ログ: 品質登録簿 <p>b) 「品質」プラクティスに関連する主要な役割の重点分野 (表 8.2)</p> <p>c) 効果的なマネジメント技法と関連技法 (8.2、8.3)</p>	
	<p>3.4.2 「品質」プラクティスの適用に対するアプローチが効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する: PRINCE2 の原則、プラクティスの効果的なマネジメント技法と関連技法、プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング (8.2、8.3、8.4、8.7)</p>	BL4
	<p>3.5 リスク</p> <p>3.5.1 次の項目に関する理解を示しながら、PRINCE2 の「リスク」プラクティスを適用する:</p> <p>a) 「リスク」プラクティスを支援するために必要な、主なマネジメント成果物 (9.5):</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PID: リスク・マネジメント・アプローチ ○ プロジェクト・ログ: リスク登録簿 <p>b) 「リスク」プラクティスに関連する主要な役割の重点分野 (表 9.3)</p> <p>c) 効果的なマネジメント技法と関連技法 (9.2、9.3)</p>	BL3
	<p>3.5.2 「リスク」プラクティスの適用に対するアプローチが効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する: PRINCE2 の原則、プラクティスの効果的なマネジメント技法と関連技法、プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング (9.2、9.3、9.4、9.7)</p>	BL4
	<p>3.6 課題</p> <p>3.6.1 次の項目に関する理解を示しながら、PRINCE2 の「課題」プラクティスを適用する:</p> <p>a) 「課題」プラクティスを支援するために必要な、主なマネジメント成果物 (10.5):</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PID: 課題マネジメント・アプローチ ○ 課題登録簿 ○ 課題報告書 <p>b) 「課題」プラクティスに関連する主要な役割の重点分野 (表 10.2)</p> <p>c) 効果的なマネジメント技法と関連技法 (10.2、10.3)</p>	BL3
	<p>3.6.2 「課題」プラクティスの適用に対するアプローチが効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する: PRINCE2 の原則、プラクティスの効果的なマネジメント技法と関連技法、プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング (10.2、10.3、10.4、10.7)</p>	BL4

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル (Bloom's Level: BL)
	<p>3.7 進捗</p> <p>3.7.1 次の項目に関する理解を示しながら、PRINCE2の「進捗」プラクティスを適用する：</p> <p>a) 「進捗」プラクティスを支援するために必要な、主なマネジメント成果物（11.5）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクト・ログ：デイリー・ログ ○ プロジェクト・ログ：教訓ログ ○ 教訓報告書 ○ ステージ終了報告書 ○ プロジェクト終了報告書 ○ チェックポイント報告書 ○ ハイライト報告書 ○ 例外報告書 ○ PID：デジタルおよびデータ・マネジメント・アプローチ <p>b) 「進捗」プラクティスに関連する主要な役割の重点分野（表 11.3）</p> <p>c) 効果的なマネジメント技法と関連技法（11.2、11.3）</p>	BL3
	<p>3.7.2 「進捗」プラクティスの適用に対するアプローチが効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：PRINCE2の原則、プラクティスの効果的なマネジメント技法と関連技法、プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング（11.2、11.3、11.4、11.7）。</p>	BL4
<p>4. 関連するPRINCE2プロセスの側面を状況に適用（およびテーラリング）する方法を理解する</p>	<p>4.1 プロジェクトの始動</p> <p>4.1.1. 次の項目に関する理解を示しながら、「プロジェクトの始動」プロセスを実行する：</p> <p>a) 活動、インプット、アウトプット（表 13.1、13.4）</p> <p>b) プロセス内で推奨される役割と責任（RACI表）（表 13.2）</p> <p>c) プラクティスの適用方法（表 13.3）</p>	BL3
	<p>4.1.2 「プロジェクトの始動」プロセスの活動、役割、責任が効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング、PRINCE2のプラクティス、プロセスの目的と達成目標（13.1、13.2、13.4、13.5、13.6、13.7）</p>	BL4
	<p>4.1 プロジェクトの指揮</p> <p>4.2.1. 次の項目に関する理解を示しながら、「プロジェクトの指揮」プロセスを実行する：</p> <p>a) 活動、インプット、アウトプット（表 14.1、14.4）</p> <p>b) プロセス内で推奨される役割と責任（RACI表）（表 14.2）</p> <p>c) プラクティスの適用方法（表 14.3）</p>	BL3

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル (Bloom's Level: BL)
	4.2.2 「プロジェクトの指揮」プロセスの活動、役割、責任が効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング、PRINCE2のプラクティス、プロセスの目的と達成目標（14.1、14.2、14.4、14.5、14.6、14.7）	BL4
	4.3 プロジェクトの立ち上げ 4.3.1. 次の項目に関する理解を示しながら、「プロジェクトの立ち上げ」プロセスを実行する： a) 活動、インプット、アウトプット（表 15.1、15.4） b) プロセス内で推奨される役割と責任（RACI 表）（表 15.2） c) プラクティスの適用方法（表 15.3）	BL3
	4.3.2 「プロジェクトの立ち上げ」プロセスの活動、役割、責任が効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング、PRINCE2のプラクティス、プロセスの目的と達成目標（15.1、15.2、15.4、15.5、15.6、15.7）	BL4
	4.4 ステージのコントロール 4.4.1. 次の項目に関する理解を示しながら、「ステージのコントロール」プロセスを実行する： a) 活動、インプット、アウトプット（表 16.1、16.4） b) プロセス内で推奨される役割と責任（RACI 表）（表 16.2） c) プラクティスの適用方法（表 16.3）	BL3
	4.4.2 「ステージのコントロール」プロセスの活動、役割、責任が効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング、PRINCE2のプラクティス、プロセスの目的と達成目標（16.1、16.2、16.4、16.5、16.6、16.7）	BL4
	4.5 成果物デリバリーのマネジメント 4.5.1. 次の項目に関する理解を示しながら、「成果物デリバリーのマネジメント」プロセスを実行する： a) 活動、インプット、アウトプット（表 17.1、17.4） b) プロセス内で推奨される役割と責任（RACI 表）（表 17.2） c) プラクティスの適用方法（表 17.3）	BL3
	4.5.2 「成果物デリバリーのマネジメント」プロセスの活動、役割、責任が効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング、PRINCE2のプラクティス、プロセスの目的と達成目標（17.1、17.2、17.4、17.5、17.6、17.7）	BL4

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル (Bloom's Level: BL)
	4.6 ステージ境界のマネジメント 4.6.1. 次の項目に関する理解を示しながら、「ステージ境界のマネジメント」プロセスを実行する： <ul style="list-style-type: none"> a) 活動、インプット、アウトプット（表 18.1、18.4） b) プロセス内で推奨される役割と責任（RACI 表）（表 18.2） c) プラクティスの適用方法（表 18.3） 	BL3
	4.6.2 「ステージ境界のマネジメント」プロセスの活動、役割、責任が効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング、PRINCE2 のプラクティス、プロセスの目的と達成目標（18.1、18.2、18.4、18.5、18.6、18.7）	BL4
	4.7 プロジェクトのクローズ 4.7.1. 次の項目に関する理解を示しながら、「プロジェクトのクローズ」プロセスを実行する： <ul style="list-style-type: none"> a) 活動、インプット、アウトプット（表 19.1、19.4） b) プロセス内で推奨される役割と責任（RACI 表）（表 19.2） c) プラクティスの適用方法（表 19.3） 	BL3
	4.7.2 「プロジェクトのクローズ」プロセスの活動、役割、責任が効果的であり、目的に適合しているかどうかを分析する。そのときに以下を考慮する：プロジェクトの環境/状況に合わせたテーラリング、PRINCE2 のプラクティス、プロセスの目的と達成目標（19.1、19.2、19.4、19.5、19.6、19.7）	BL4

5. 試験の詳細

PRINCE2 プラクティショナー試験は、以下のような構造の 4 つのセクションから構成されます。

学習成果	比重(配点) %
1. PRINCE2 の原則を状況に適用する方法を理解する	10%
2. プロジェクトを成功に導く効果的な人材マネジメントを適用する方法を理解する	9%
3. 関連する PRINCE2 プラクティスの側面を状況に適用およびテーラリングする方法を理解する	51%
4. 関連する PRINCE2 プロセスの側面を状況に適用（およびテーラリング）する方法を理解する	30%
合計	100%

PeopleCert